

京都産学公連携機構「京都発未来創造型産業創出連携拠点」大学シーズ発表・相談会

お問い合わせ

シーズに関するお問い合わせ

関西ティー・エル・オー株式会社(京都大学の新技术を担当)
TEL: 075-753-9150 FAX: 075-753-9169
✉ tlo@kansai-tlo.co.jp

同志社大学 リエゾンオフィス
TEL: 0774-65-6223 FAX: 0774-65-6773
✉ jt-liais@mail.doshisha.ac.jp

京都工芸繊維大学 創造連携センター
TEL: 075-724-7933 FAX: 075-724-7030
✉ corc@kit.ac.jp

京都府立大学 地域連携センター
TEL: 075-703-5147/5905 FAX: 075-703-5149
✉ rcenter@kpu.ac.jp

京都府立医科大学 産学公連携戦略本部事務局
TEL: 075-251-5208 FAX: 075-211-7093
✉ kikaku01@koto.kpu-m.ac.jp

立命館大学 リサーチオフィス(BKC)
TEL: 077-561-2802 FAX: 077-561-2811
✉ liaisonb@st.ritsumeiji.ac.jp

龍谷大学 龍谷エクステンションセンター(滋賀)
TEL: 077-543-7743 FAX: 077-543-7771
✉ rec@ad.ryukoku.ac.jp

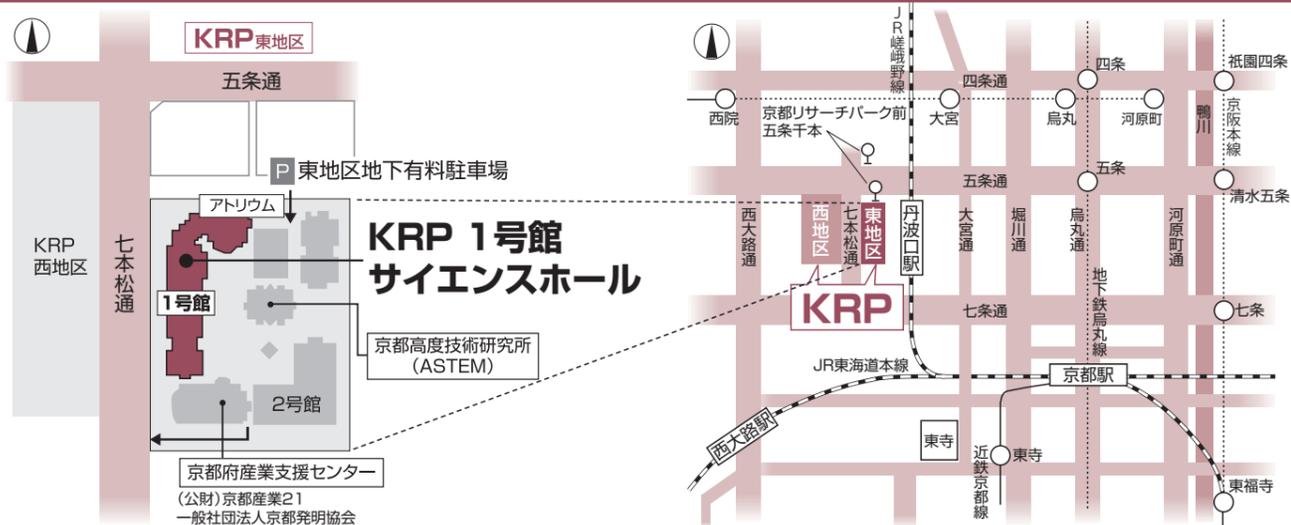
京都産業大学 リエゾンオフィス
TEL: 075-705-1778 FAX: 075-705-1966
✉ liaison-office@star.kyoto-su.ac.jp

大学シーズ発表・相談会について

京都産学公連携機構 グローバル拠点推進室
TEL: 075-229-6455 FAX: 075-212-7022
✉ event919@kyoto-icc.jp

参加費無料 事前登録制 定員: 各説明150名
申込書をファクスでお送りいただくか、下記ホームページからお申込みください。
<http://www.kyoto-icc.jp/0919event/>

会場のご案内



お申込み方法(下記申込書をファクスでお送りいただくか、ホームページよりお申込みください)申込み締切日: 9月14日(金)

京都産学公連携機構 グローバル拠点推進室 行 FAX **075-212-7022** <http://www.kyoto-icc.jp/0919event/>

| 京都産学公連携機構「京都発未来創造型産業創出連携拠点」大学シーズ発表・相談会 2012年9月19日(水) 申込書 | | | | | | | | | | | | |
|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| ふりがな | | | | | | | | | | | | |
| 会社名 (正式名称) | 勤務先所在地 | | | | | | | | | | | |
| 業種 | 職種 | | | | | | | | | | | |
| ふりがな | 所属役職 | | | | | | | | | | | |
| 氏名 | E-mailアドレス | | | | | | | | | | | |
| 受講希望 | <input type="checkbox"/> |
| 個別相談 申込 | <input type="checkbox"/> |
| 申込書に記入いただいた所在地やメールアドレスに、主催者・関係者から各種ご案内(新技术説明会・展示会・公募情報等)をお送りする場合があります。 希望されない場合はチェックをお願いします <input type="checkbox"/> ダイレクト・メールによる案内を希望しない <input type="checkbox"/> E-mailによる案内を希望しない <input type="checkbox"/> | | | | | | | | | | | | |

文部科学省 地域イノベーション戦略支援プログラムグローバル型(第二期)

京都産学公連携機構「京都発未来創造型産業創出連携拠点」

エネルギー、環境、ライフサイエンス

個別相談
受け付けます!

2012 大学シーズ発表・相談会

日本の科学技術は京都から!

発明者自身が企業関係者を対象に実用化を展望した技術の説明を行い、広く実施企業・共同研究パートナーを募ります。

2012年9月19日(水) 13:00~17:35 京都リサーチパーク 1号館サイエンスホール

主催: 「京都発未来創造型産業創出連携拠点」推進委員会(構成機関: 京都商工会議所、京都大学、同志社大学、京都工芸繊維大学、京都府、京都市)
共催: 京都環境ナノクラスター(財)京都高度技術研究所
後援(予定): 近畿経済産業局、(独)科学技術振興機構、(社)京都工業会、京都リサーチパーク株式会社

プログラム

- 13:00~13:05 主催者挨拶
- 13:05~13:25 **エネルギー自立型太陽熱給湯・発電システム**
エネルギー 同志社大学 理工学部 エネルギー機械工学科 教授 山口 博司
 - 13:25~13:45 **動的なリアルタイム気象予測情報表示システム**
エネルギー 京都大学 防災研究所 副グループ長 辰巳 賢一
 - 13:45~14:05 **消化ガスの生成方法及びその生成装置**
環境 京都大学 大学院工学研究科 准教授 大下 和徹
 - 14:05~14:25 **ポリ乳酸の今後の展開**
バイオ 京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科 バイオベースマテリアル学部門 教授 小原 仁実
 - 14:25~14:45 **前後左右斜めの任意方向に移動可能な全方向駆動車輪の開発**
医療・健康 京都大学 大学院工学研究科 機械理工学専攻 准教授 小森 雅晴
 - 14:45~15:05 **現代日本人における暑熱・寒冷適応能力の総合的解析**
医療・健康 京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科 数理・自然部門 准教授 芳田 哲也
 - 15:15~15:35 **新規農薬候補のスクリーニング方法及びその遺伝子**
バイオ 京都大学 大学院農学研究科 応用生物科学専攻 准教授 高野 義孝
 - 15:35~15:55 **京都産の赤化した満願寺唐辛子・アカモクの健康増進作用に着目した研究**
医療・健康 京都府立大学 大学院生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 食品科学研究室 教授 佐藤 健司
 - 15:55~16:15 **性ホルモンの作用に着目したアンチエイジング素材の開発**
医療・健康 立命館大学 スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 准教授 家光 素行
 - 16:15~16:35 **酵素を用いない微量過酸化水素の迅速検出**
医療・健康 同志社大学 理工学部 機能分子・生命化学科 准教授 人見 穰
 - 16:35~16:55 **ペプチド集合体を鋳型とする金ナノ結晶の合成**
医療・健康 龍谷大学 理工学部 物質化学科 教授 富崎 欣也
 - 16:55~17:15 **MUC16の血清診断による子宮内膜症と卵巣癌患者の識別**
医療・健康 京都産業大学 総合生命科学部 生命システム学科 教授 中田 博/助教 秋田 薫
 - 17:15~17:35 **HDAC3選択的阻害薬の創製**
医療・健康 京都府立医科大学 大学院医学研究科 医薬品化学 教授 鈴木 孝禎

<http://www.kyoto-icc.jp/0919event/>

参加費無料 事前登録制 定員: 各説明150名

| | | |
|----------|---|--------------------|
| 1 | エネルギー | 13:05～13:25 |
| | エネルギー自立型太陽熱給湯・発電システム | |
| | 同志社大学 理工学部 エネルギー機械工学科 教授 山口 博司 | |
| | 本システムは、安全・無害であって、且つ高压条件下で比較的微小な温度変化に対し大きな密度差を生じる CO ₂ を熱媒体として閉回路に内添させ、太陽熱を有効に集熱する特殊コレクターと、給湯用の熱交換器及び独自開発の発電機を有するシステムから成る外部電力不要の完全自立型エネルギー供給システム(CO ₂ ソーラーランキンシステム) である。 | |
| | ■従来技術との比較 <ul style="list-style-type: none">●高効率で熱エネルギーに変換し、給湯できる (曇天でも使用可) ●システムすべてを屋上設置でき、災害時でも非常用として対応可 ●給湯用としてコストパフォーマンスが高い(ガス給湯設備の約6割) | |
| | ■新技術の特徴 <ul style="list-style-type: none">●外部電源なしで起動し災害時に電力供給なしでも給湯・発電が可能 ●システム規模の拡大で、1kW～5kW 規模の発電が可能 ●曇天時にもエネルギーを回収し、熱回収効率が高い | |
| | ■想定される用途 <ul style="list-style-type: none">●一般家屋、農業園芸施設 ●病院・学校・庁舎・中規模商業施設などの給湯・発電システム ●熱媒体としてのCO₂の有効性の検証も実施し、地熱など他の再生可能エネルギーにもそのまま転用可能 | |

| | | |
|----------|---|--------------------|
| 2 | エネルギー | 13:25～13:45 |
| | 動的なリアルタイム気象予測情報表示システム | |
| | 京都大学 防災研究所 副グループ長 辰巳 賢一 | |
| | 本発明は、従来よりも解像度の高い局所的な気象を精度よく予測するシステムと、得られた予報結果を分かりやすく表示するシステムの発明である。今まで公開・表示できなかった解像度の高い局所的な気象場の予測計算が可能となり、その予測結果をユーザの知りたい場所の要求に応じて分かりやすく表示させることが可能になった。 | |
| | ■従来技術との比較 <ul style="list-style-type: none">●局所的な気象を精度よく予測するには高分解・高詳細土地利用データをデータベース化して使うのが良いということを見出し、国土地理院が発行する数値地図をデータベース化して気象計算に使えるようにしたことが本発明の特徴である。 | |
| | ■新技術の特徴 <ul style="list-style-type: none">●得られた予報結果をリアルタイムでデータベース化・可視化(Google Map 上で表示) ●地図上にマウスポインタを動かすだけで、その場所における現在の気象情報を表示できる ●数時間先までの気象予測値等をグラフで見ることができ | |
| | ■想定される用途 <ul style="list-style-type: none">●気象予測 ●太陽光発電の予測システム | |

| | | |
|----------|---|--------------------|
| 3 | 環境 | 13:45～14:05 |
| | 消化ガスの生成方法及びその生成装置 | |
| | 京都大学 大学院工学研究科 准教授 大下 和哉 | |
| | 下水汚泥利用の一つに、汚泥中の有機分からメタンを主成分とする消化ガスに分解する嫌気性消化法という方法がある。消化ガスのエネルギー利用が図られる一方、ガス中には汚泥から移行したシロキサンが含まれることが問題となっている。本発明を用いて、嫌気性消化の前処理にてシロキサンを除去すれば、消化ガスにシロキサンが混入することを防ぐことができる。 | |
| | ■従来技術との比較 <ul style="list-style-type: none">●本発明のように直接汚泥中に消化ガスを循環通気させシロキサンを除去する方法はこれまでにない技術である。さらにこれまでの技術では活性炭によるシロキサン除去が主だったが、本発明と組み合わせることで、除去にかかるコスト削減とよりクリーンな消化ガスの生成が行える。 | |
| | ■新技術の特徴 <ul style="list-style-type: none">●クリーンな消化ガスを多く得ることができる ●消化ガス精製における活性炭吸着が不要、もしくは減量につながる可能性 | |
| | ■想定される用途 <ul style="list-style-type: none">●汚泥によるバイオエネルギー生産 ●メタン発酵によるシロキサン除去技術 | |

※ 大学シーズ発表・相談会では、各新技術の説明後には質疑応答の時間を設けていませんが、各技術個別の「相談コーナー」を別室に用意しています。発明者、開発者と直接話すことで技術のより詳細な内容と特徴を理解し、実用化、共同研究の実施について検討できるまたとない機会です。裏面の申込書またはホームページにてお申し込みください。

| | | |
|----------|---|--------------------|
| 4 | バイオ | 14:05～14:25 |
| | ポリ乳酸の今後の展開 | |
| | 京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科 バイオバースマテリアル学部門 教授 小原 仁美 | |
| | 市販の固定化酵素(リパーゼ)がD-乳酸エステルを光学選択的に重合させることを見出した。この原理を応用して、L-乳酸の光学純度を改善させる。 | |
| | ■従来技術との比較 <ul style="list-style-type: none">●高結晶性のポリ乳酸を製造するには、高光学純度のL-乳酸を原料とする必要がある。そのために、選択した微生物を用いて発酵法でL-乳酸を製造していた。光学活性カラムで乳酸の光学異性体を分離することは可能であるが、コストがアップし現実的ではない。 | |
| | ■新技術の特徴 <ul style="list-style-type: none">●高光学純度のL-乳酸を製造可能 ●従来の発酵乳酸の精製工程に容易に組み込み可能 ●市販の固定化酵素を利用 | |
| | ■想定される用途 <ul style="list-style-type: none">●高光学純度のL-乳酸製造 ●D-乳酸オリゴマーの製造 ●その他 | |

| | | |
|----------|---|--------------------|
| 5 | 医療・健康 | 14:25～14:45 |
| | 前後左右斜めの任意方向に移動可能な全方向駆動車輪の開発 | |
| | 京都大学 大学院工学研究科 機械理工学専攻 准教授 小森 雅晴 | |
| | 工場、倉庫、病院のような狭い空間内において素早く無駄なく移動を実現するため、1つの車輪だけで前後左右斜めの任意の方向に移動や物体搬送をすることができる『全方向駆動車輪』を開発した。 | |
| | ■従来技術との比較 <ul style="list-style-type: none">●全方向駆動車輪は前後にも左右にも斜めにも任意の方向に移動や物体搬送を実現することができるだけでなく、不確実な回転抵抗が無いため、安定した正確な移動や物体搬送が可能という特徴を有している。 | |
| | ■新技術の特徴 <ul style="list-style-type: none">●任意の方向に移動や物体搬送を実現することができる ●素早く無駄なく任意の方向への移動や物体搬送が可能になる ●安定した正確な移動や物体搬送が可能になる | |
| | ■想定される用途 <ul style="list-style-type: none">●工場や倉庫などで使用する移動車両・搬送台車・フォークリフト・無人搬送車などの移動装置での利用 ●ベルトコンベア、ローラコンベアのような固定された搬送装置での利用、選別送り出し装置としての利用 ●車いす、配膳車、ベッドなどの医療福祉用移動装置での利用 | |

| | | |
|----------|--|--------------------|
| 6 | 医療・健康 | 14:45～15:05 |
| | 現代日本人における暑熱・寒冷適応能力の総合的解析 | |
| | 京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科 数理・自然部門 准教授 芳田 哲也 | |
| | エアコン使用による快適環境下での日常生活と運動不足は、人間の環境適応能力を減退させる要因になる。本シーズでは熱中症や低温による事故を減少させるために重要な人間の機能向上を目的として、暑熱・寒冷環境における現代日本人の適応能力を評価し、さらに日常生活時に曝露されている温度や運動習慣と環境適応能力との因果関係を総合的に解析して、現代日本人の健康水準を向上させる方策について検討する。 | |
| | ■従来技術との比較 <ul style="list-style-type: none">●従来、ヒトの環境適応能力は暑熱・寒冷環境における体温調節反応を生理学的に解析して評価している。本シーズではこの方法に加えて、環境適応能力に影響を与える要因を生気象学のおよび衛生学的手法を用いて測定し、ヒトの環境適応能力とその決定要因を総合的に解析する。 | |
| | ■新技術の特徴 <ul style="list-style-type: none">●現代日本人における環境適応能力の現状が明らかになるので、それに対応した熱中症や低温による障害の予防指針が作成できる ●ヒトの環境適応能力の決定要因を総合的に解析できるので、環境適応能力を向上させるための具体的方法や日常生活時の留意点が明確に指示できる ●現代日本人における環境適応能力やその改善方法、および障害予防対策が一般社会に普及すると、将来的には日本人の健康増進に繋がる | |
| | ■想定される用途 <ul style="list-style-type: none">●暑熱・寒冷環境に関する対策グッズ(保冷剤/温熱シートなど)や健康飲料・食品の開発 ●暑熱・寒冷環境時の注意・警報等を一般社会に発信するネットワークビジネス ●暑熱・寒冷環境に伴う障害予防に関する各種講演会等のイベント企画 | |

| | | |
|----------|---|--------------------|
| 7 | バイオ | 15:15～15:35 |
| | 新規農薬候補のスクリーニング方法及びその遺伝子 | |
| | 京都大学 大学院農学研究科 応用生物学専攻 准教授 高野 義孝 | |
| | 植物病原糸状菌の分泌過程は農薬の標的サイトとして非常に有効と推定される。病原性に関与する分泌タンパク質の分泌をモニターできる病原菌ラインを作出し、病原菌の分泌機構への阻害化合物を簡便かつ低コストでスクリーニングできる系を確立した。 | |
| | ■従来技術との比較 <ul style="list-style-type: none">●本スクリーニング系は、従来技術と比較して、省スペース化・低コスト化を実現しており、また、殺菌型化合物ではなく菌の分泌戦略をブロックする化合物をターゲットにしており、このような化合物は耐性菌出現のリスクは比較的低い。 | |
| | ■新技術の特徴 <ul style="list-style-type: none">●病原糸状菌の分泌機構を阻害できる化合物の簡便なスクリーニングシステム ●真核細胞の分泌機構を阻害できる化合物のスクリーニングシステム | |
| | ■想定される用途 <ul style="list-style-type: none">●新しい作用機作を有する病害防除化合物の探索 ●分泌機構の研究に利用できる化合物の探索 | |

| | | |
|----------|---|--------------------|
| 8 | 医療・健康 | 15:35～15:55 |
| | 京都産の赤化した満願寺唐辛子・アカモクの健康増進作用に着目した研究 | |
| | 京都府立大学 大学院生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 食品科学研究室 教授 佐藤 健司 | |
| | 赤化した満願寺唐辛子は種子が採取できるため出荷されない場合が多く有効に利用されていない。また京都府農林水産技術センター海洋センターで養殖に成功したアカモクも現時点ではその利用はかなり限られている。これらの産物中にはカプサンチン、フコキサンチン等の健康増進作用が期待できるカロテノイド類が含まれている。これらのカロテノイドを手軽に摂取できる利用法について検討を行った。 | |
| | ■従来技術との比較 <ul style="list-style-type: none">●カプサンチン及びフコキサンチンは、パプリカや褐藻から抽出されサプリメントとしての利用が試みられているが、不安定であり実用化が困難である。本技術では食品中に安定に移行させることに成功した。 | |
| | ■新技術の特徴 <ul style="list-style-type: none">●赤化満願寺唐辛子を摂取させた鶏の卵黄へのカプサンチンの移行を確認した ●アカモクを前処理後、廃鶏に摂取させると肉質の改善が生じた ●アカモクの摂取で鶏の可食部へのフコキサンチン誘導物の蓄積が認められた | |
| | ■想定される用途 <ul style="list-style-type: none">●赤化満願寺唐辛子の有効活用 ●アカモクの有効活用 ●健康増進作用を持つ鶏由来食品の開発 | |

| | | |
|----------|--|--------------------|
| 9 | 医療・健康 | 15:55～16:15 |
| | 性ホルモンの作用に着目したアンチエイジング素材の開発 | |
| | 立命館大学 スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 准教授 家光 素行 | |
| | 加齢により生活習慣病のリスクは増大し、性ホルモンの分泌能は低下する。両者には逆関関が認められ、さらに性ホルモンの前駆体であるDHEAの補充が、糖尿病リスク、肥満、サルコペニア(筋量・筋力低下)を改善できることを解明してきた。この知見をもとに天然物からDHEA様素材を見出し摂取することで、減少した性ホルモン作用を補う。このような素材は糖代謝などを亢進し、体内からのアンチエイジング作用が期待できる。 | |
| | ■従来技術との比較 <ul style="list-style-type: none">●インスリン低下は糖の吸収を弱め、結果として高血糖を示す。性ホルモンの作用は、インスリン非依存的な筋細胞での糖の取り込み促進であり、従来の糖吸収抑制剤や運動との併用も可能である。よって、性ホルモン様素材を提供することにより、従来の糖吸収抑制剤や運動などと相加的・相乗的效果を持つ機能性食品が開発できる。 | |
| | ■新技術の特徴 <ul style="list-style-type: none">●運動時と同様に、インスリン非依存的な糖の取り込み促進が期待でき、さらに運動との相加的・相乗的效果も期待できる ●骨格筋内のたんぱく質合成を促進させ、筋量の維持・増進に貢献する効果が認められる ●脂肪細胞に作用して、内臓脂肪の低下に貢献する可能性が認められる | |
| | ■想定される用途 <ul style="list-style-type: none">●天然物由来の血糖値改善を目的とした性ホルモン様素材(物質)のスクリーニング技術の提供 ●血糖値改善を目的とした機能性食品(性ホルモン様素材)の開発 ●すでに得られている候補素材について、情報公開～共同開発 | |

| | | |
|-----------|---|--------------------|
| 10 | 医療・健康 | 16:15～16:35 |
| | 酵素を用いない微量過酸化水素の迅速検出 | |
| | 同志社大学 理工学部 機能分子・生命化学科 准教授 人見 穰 | |
| | 酵素を用いずに微量な過酸化水素を迅速に検出する高感度蛍光プローブ。金属錯体と蛍光団を一分子内に含む蛍光プローブであり、それ自身では蛍光を示さないが、金属錯体部位と過酸化水素との速やかな反応と分子内酸化反応によって、蛍光物質を放出することができる。 | |
| | ■従来技術との比較 <ul style="list-style-type: none">●金属錯体を反応点として有するため、従来の有機化合物のみからなる過酸化水素蛍光プローブよりも高感度である。不安定な酵素を用いないために、常温固体状態でも安定であり、水中だけでなく気相の過酸化水素も検出可能である。また、酵素の基質となりうる化学物質および酵素阻害剤による影響を受けない。 | |
| | ■新技術の特徴 <ul style="list-style-type: none">●酵素を用いないため酵素基質および酵素阻害剤による影響を受けない ●常温固体状態でも安定であり、気相の過酸化水素も検出可能である ●従来の有機化合物のみからなる過酸化水素蛍光プローブよりも高感度である | |
| | ■想定される用途 <ul style="list-style-type: none">●グルコースセンサー ●過酸化水素定量による酸化ストレス測定 ●食品、食器への残留過酸化水素の検出 | |

| | | |
|-----------|--|--------------------|
| 11 | 医療・健康 | 16:35～16:55 |
| | ペプチド集合体を鋳型とする金ナノ結晶の合成 | |
| | 龍谷大学 理工学部 物質化学科 教授 富崎 欣也 | |
| | 金ナノロッドのもつ近赤外光を熱に変換する特性をフォトサーマル療法へ応用する。本発表では、細胞毒性のある界面活性剤に代わりペプチド集合体を鋳型とする金ナノ粒子の合成法について紹介する。 | |
| | ■従来技術との比較 <ul style="list-style-type: none">●金ナノロッドの従来合成技術では、細胞毒性のある界面活性剤を使用するが、本合成法では界面活性剤に代わりペプチド集合体を鋳型として金ナノ粒子を合成する。 | |
| | ■新技術の特徴 <ul style="list-style-type: none">●生体適合ペプチドの利用による金ナノ粒子合成法 ●細胞毒性のある界面活性剤が不要な金ナノ粒子合成法 ●還元剤不要な金ナノ粒子合成法 | |
| | ■想定される用途 <ul style="list-style-type: none">●フォトサーマル療法 ●電子デバイス ●バイオセンサー | |

| | | |
|-----------|---|--------------------|
| 12 | 医療・健康 | 16:55～17:15 |
| | MUC16の血清診断による子宮内膜症と卵巣癌患者の識別 | |
| | 京都産業大学 総合生命科学部 生命システム学科 教授 中田 博 ／助教 秋田 薫 | |
| | 子宮内膜症及び卵巣癌の産生するMUC16(CA125抗原をもつタンパク質)上の糖鎖修飾の差異に基づき、両疾患を識別する方法を開発する。 | |
| | ■従来技術との比較 <ul style="list-style-type: none">●子宮内膜症と卵巣癌の血清診断は、CA125の量的差異によって診断するために、便宜上35U/mlを境界に診断しているが、明確でない。 | |
| | ■新技術の特徴 <ul style="list-style-type: none">●両疾患の産生するMUC16の質的差異によって識別するために、差異が明確である ●卵巣癌患者の中でもその測定値はステージの違いで大きな差がでる ●当研究室で保持している単クローン抗体を使用し、感度もあげることが出来る | |
| | ■想定される用途 <ul style="list-style-type: none">●臨床検査 | |

| | | |
|-----------|--|--------------------|
| 13 | 医療・健康 | 17:15～17:35 |
| | HDAC3選択的阻害薬の創製 | |
| | 京都府立医科大学 大学院医学研究科 医薬品化学 教授 鈴木 孝禎 | |
| | クリックケミストリーと呼ばれる手法を利用して、HDAC 阻害薬のライブラリーを構築した。そのライブラリーのスクリーニングにより、HDAC3 選択的阻害薬を効率的に見出した。それらの阻害薬は、がん細胞増殖阻害活性を示した。また、本阻害剤を用いた研究により、HDAC3がHIVの潜伏感染に関与することも明らかにした。 | |
| | ■従来技術との比較 <ul style="list-style-type: none">●本HDAC3 選択的阻害薬は、これまでに報告されたHDAC3 阻害薬に比べ、高いHDAC3 阻害活性、選択性を示す。また、クリックケミストリーを利用した本阻害薬の探索手法は、他の阻害薬の探索にも利用することが可能である。 | |
| | ■新技術の特徴 <ul style="list-style-type: none">●クリックケミストリーを利用した創薬 ●分子標的治療 ●阻害薬を用いたタンパク質の機能解明研究 | |
| | ■想定される用途 <ul style="list-style-type: none">●抗がん剤 ●抗ウイルス剤 ●生物試験用試薬 | |